



健康一口メモ

仙台市医師会  
広報委員  
菊地 徹

大腸がん検診は、便を2日間採取して行います。便に潜む血液と書いて『便潜血反応』といいます。現在は『免疫法』といってヒトヘモグロビンに対する抗体を用いて調べます。

『免疫法』は、従来法と比較して、胃液や唾液などの消化液によって変形したヘモグロビンを拾いませんで、食道や胃といった上部消化管からの出血には反応しません。また、「検査の前日に血の滴るようなお肉をたくさん食べたから？」と疑われる方がいますが、ヒト以外の動物の血液にも反応することはありません。よって現在の便潜血はほぼ大腸からの出血と切り切ることができます。

先程、便を2日間採取すると書きましたが、どちらか一方でも陽性であれば陽性と診断します。中には、「納得がいかないので再検査を」と申し出る方もいますが、あくまでも大腸がんを拾い上げるのが目的であって、決して陰性を追及するのが目的ではないので、再検査は意味を成しません。

陽性と診断された場合、大腸内視鏡検査を行うことになりますが、本邦の大腸がん検診の問題点は、陽性

## 大腸がん検診も受けましょう

ながら実際に検査を行う人が60〜70%と欧米と比較して少ないことです。これを『精検受診率』といいます。が、仙台市の場合、何と素晴らしいことに欧米並みの85%前後を保っています。

最後に、最も気になる『がん発見率』です。本市では、ここ10年0.12〜0.14%の間で推移しております。すなわち便潜血を指摘された1000人に大腸内視鏡を施行して、がんが見つかるのは1人強といった計算になります。一方、ポリープはおよそ半数の人で見つかります。特に、がんの前段階(前癌病変といいます)である『腺腫性ポリープ』は、内視鏡的に切除することにより大腸がん発症のリスクを、ひいては大腸がんによる死亡のリスクを下げる効果に直結します。

皆さんも面倒くさがらずに大腸がん検診も受けましょう。

〔菊地胃腸科内科医院

／青葉区春日町〕



地域とともに50年。鮮やかな未来へ。

77 Lease Co.,Ltd.



SINCE 1974

おかげさまで、七十七リースは2024年11月25日に50周年を迎えます。

今後とも皆様のお役に立てますよう努力してまいりますので、

ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

77 七十七リース

LEASING

宮城県仙台市青葉区本町二丁目15番1号 ルナルル仙台12階 TEL022-262-4341(代表)